

「児童館にいったらできるかも」

取組の背景・目的

中高生世代は時間的、物理的に児童館を利用しにくくなったり、児童館から足が遠のいたりする時期である。児童館はそういう中高生世代がいつ来ても安心して立ち寄れる場所であり続けなければならない。世田谷区の児童館では中高生世代の「声」を聴き入れる「TEENS プロジェクト」を実施している。小学生の時に児童館を利用していた中高生世代が中心となることが多いが「児童館にいったらできるかも」「職員に言ったらもしかして」とふと思い出してくれるような場所であり、存在であることを大切にしたい。

令和4年度、コロナ禍であらゆる事業が中止・規制の中、できる範囲で当時の小学6年生がお泊まり会を企画した。コロナの規制の中、職員と一緒に工夫した取り組みができ、「児童館にいったらできるかも」の子どもたちの「期待の声」を形にすることができた。それを聞いた下級生たちが「自分たちも6年生になったらお泊まりしたい」となり、今年度で3年目を迎える。

取組の概要

【実施場所】上北沢児童館

【実施頻度】お泊まり会に関しては1年に1回（3月）

TEENS プロジェクトは常時

【職員体制】3名

【参加人数】13名（令和4年度）25名（令和5年度）

【対象】小学6年生、中高生世代

【事業の実施方法】

事前活動：事前に何をやりたいか？夕食、何を作りたいかを申し込みをした参加者とする。

工夫点・留意点

【対象】

TEEMS プロジェクトは基本、中学生からであるがこの「お泊まり会」は対象を小学6年生からにしている。小学6年生が期待とともに不安に思っている中学校生活や部活の情報などをこの事業を通じて中学生と自然と相談する様子が見られるからだ。

【スケジュール、約束事は参加者が決める】

事前活動で当日のスケジュールを決める。令和5年度の事前活動では「夕食を豪華にしたいので朝食はいらない」「できるだけ朝はギリギリまで寝たい」の声を採用した。

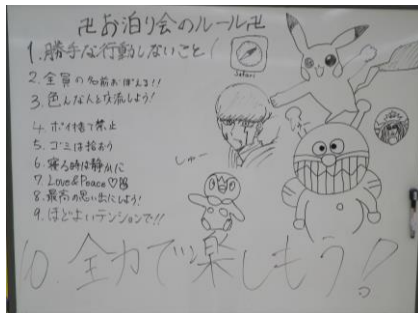
すべては参加者のみんなで考えて作成する。携帯については職員からは何も言わなかったのだが「できるだけみんなと話したいから携帯見ていい時間と見ちゃいけない時間をつくろうよ」という提案があった。職員は絶対みんなの賛同を得られないと思っていたが全員賛同し、採用となった。

【あえて事業を見える化】

参加者には17時に集合して、閉館の18時あたりから食事づくりを始める。部活後で17時に来れない子が多い中、なぜ17時集合なのかというと、来館している下級生に「いいなあ」「来年参加したい」という気持ちを高揚させる意図がある。(部活後遅れて参加もちろん可)

【中学生参加者には優待券】

お泊まり会後は「また来年も」とみんな言ってくれるが中学生になったら来館する回数が減ることは間違いない。本当は参加したかったけど、申し込みに来れなかった等にならないために中学生の参加者には「じどうかんに泊まろう優待券」を渡した。小学6年生の参加者からは「いいなあ」の声が・・・



(参加者納得のルール)



(携帯電話見ない時間)



(協力してクッキング)

取組の効果

【社会福祉協議会の協力】

昨年度、児童館活動紹介をしたところ、世田谷区社会福祉協議会の行なう「フードパントリー」(食料の支援を必要とする近隣の子どもたちに無料で食品を配布する活動)から食品を提供していただいた。

【児童館にいったらできるかも】

お泊まり会に参加した小学6年生も、中学生になり部活等で児童館に来る回数が減った。久しぶりに来館すると閉館後の18時以降に集まるイベントをできないかと職員に相談。令和6年5月に「お好み焼きパーティー」を実施した。そのイベントを知ったほかの中学生が誕生日イベントを企画。児童館に来館する子が誰でも企画立案できるように「企画書」が出来上がった。

課題・今後の展開

の児童館は区内25館あるうちの5館は中高生支援館で19時まで開館している。上北沢児童館は18時までの開館のため部活後の中高生が立ち寄って、遊んだり、職員と話したりするのは時間的、物理的に困難な面もある。この事業のように小学生時代に児童館を利用していた中高生と今まで児童館を利用していなかった中高生が「児童館に行くことを歓迎されること」が伝わるようなメッセージを発信することが重要である。今後、このお泊まりの事業を恒例化し、これからも子どもたちの「児童館にいったらできるかも」の期待に応えていく。

